

公益財団法人網走監獄保存財団/博物館網走監獄

平成 28 年度事業計画(案)

平成 28 年度収支予算(案)

説明資料:平成 28 年度主要事業の概要

1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日、当財団が所有し博物館網走監獄において保存公開をしている旧網走監獄、旧網走刑務所建造物 2 件 8 棟が重要文化財の正式な指定を受けました。このことにより当館は重文 2 件 8 棟、登録有形文化財 6 棟を有する歴史博物館となりました。貴重な国民共有の歴史的資産として認められたことを重く受け止め、今後の文化財保存と活用に真摯に取り組んでまいります。

(1) 「重要文化財指定記念フォーラム・博物館網走監獄の役割と今後の展望」開催 事業

4 月 9 日に北海道新聞社と共催し「重要文化財指定記念フォーラム・博物館網走監獄の役割と今後の展望」を開催します。当館がこれらの重要文化財を活用し網走のまちづくりにどのような役割を担うべきか、また木造建造物の保存について今後の方向性を提案していただく記念フォーラムとし、今回の重文指定に携わった文化庁担当官、著名な建築史研究者 2 名を招聘します。フォーラムに併せて重文指定を記念する祝賀会をレセプション形式で開催します。レセプションを会費制とするため会費、共催の北海道新聞より費用分担金を収入として見込んでいます

・新規事業

予算額

支出 3,365千円

収入 1,000千円

(支出科目:その他臨時費用、収入科目:雑収入)

(2) 重要文化財保存活用計画の策定 事業

今後の文化財修復や 維持対策・計画、そして活用策など時間をかけて取りまとめ、国や道、網走市と情報を共有するものです。初年度は他地域の文化財保存活用計画などについて調査事業を行います。数々の重要文化財、登録有形文化財の保存公開を行っている博物館明治村(愛知県犬山市)の視察調査を企画します。

・新規事業

予算額

400千円

(支出科目:旅費交通費)

(3) 重要文化財表示解説板設置 事業

新たに重要文化財となった建造物に重文指定を表示する新たな解説版 4 基を設置します。旧網走監獄庁舎、舎房および中央見張り所、教誨堂、旧網走刑務所二見ヶ岡刑務支所となります。表示は日本語以外に英文、中文簡体字、中文繁体字、韓国語の多言語表示とし外国人入館者対応を考慮します。素材はステンレス製、車椅子利用者にも見やすいデザインを採用します。

・新規事業

予算額

5,700千円

(支出科目:固定資産取得・環境整備)

(4) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立 事業

国民共有の歴史的資産である重要文化財指定を受け、今後の建造物の防災体制の確立に取り組めます。自主防災点検、避難訓練の実施を通じ既存の消防計画を見直し、現状の体制に見合った新しい消防計画を作成、提出します。防災設備(消火設備、警報装置)の更新、拡充計画をあわせて企画します。網走地区消防組合、地域消防団との連携を進めます。

・新規事業 予算額 500千円
(支出科目:防災管理委託料)

(5) 重要文化財指定建造物内部展示改修 事業(2 充実した博物館の運営を図る(4))

重要文化財指定を受け、教誨堂、舎房、二見ヶ岡刑務支所の内部展示を見直し建造物に纏わる歴史的背景を明確化し深みのある展示内容とすることを目的に平成 28 年度は教誨堂の内部展示改修のための基本設計を行います。現在までの収集活動で入手した明治 45 年完成当時の棟札、宗教教誨の行われた時代の写真や辞令、主要な教誨師の紹介、各集治監の教誨堂建築との比較などを展示し資料の充実を図り、外国人入館者に対応し多言語表示を行うものとし平成 29 年度実施を目途に作業を進めます。以降順次、二見ヶ岡刑務支所、舎房と展示更新を進めます。

・新規事業 予算額 1,000千円
(支出科目:委託調査費)

2 充実した博物館の運営を図る

(1) 博物館の社会教育事業

① 体験講座、ワークショップの開催 事業

春の体験講座「館内の花を貼ってオリジナルバスケット作り」、夏休み体験講座「凝灰岩（軟石）でアート」「大工さんに挑戦 鳥の巣箱とプランター作り」、秋の体験講座「凧を作って高く揚げよう」、冬の体験講座「注連縄飾りに挑戦」、正月体験講座「福を呼ぶ干支の水引作り」、春の体験講座「和紙で折雛作り」野外博物館の特性と刑務所作業を追体験するワークショップ 8 講座を通じて子供から大人まで楽しめるメニューで講座を進めます。

・継続事業 予算額 300千円
(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

② 農園体験ワークショップの開催 事業

長期連続講座として 7 回開催し、農作物の育成・収穫体験、調理加工と一連の作業により地産地消について学び二見湖畔神社収穫祭に繋がります。

・継続事業 予算額 500千円
(支出科目:臨時雇用賃金、植栽雑費)

③ 看守長屋の年中行事 事業

年中行事の実施は増加傾向にある外国人見学者に好評なため、外国人が想像する日本らしさを表現するよう企画します。看守長屋を会場に 8 回開催。春のひな祭り、五月の節句、夏の七夕、秋の十五夜、正月七草、鏡開き、正月準備、節分豆まきと8回の伝統行事を通じて、季節の移ろいと日本人の知恵を感じさせるイベントとし誰でも参加できる形式で行います。

・継続事業 予算額 300千円
(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

④ 季節イベントの開催 事業

博物館利用者誘致につながる参加しやすく楽しいイベントを開催するものです。

・5 月 GW 家族で楽しめるように子供の日にちなんだ餅つきを行い、かしわ餅を無料でプレゼント、伝統遊具作り、豆わらじ作り、「監獄スタンプラリー」などを実施。

9 月三連休「二見湖畔神社収穫祭」網走刑務所の三眺神輿を借り、神輿担ぎを体験や獅子舞などお祭りムードを演出し懐かしくて新鮮なイベントを企画します。

・継続事業 予算額 1,050千円
(支出科目:臨時雇用賃金、器具費、教育普及費)

(2) 企画展開催 事業

企画展は、重要文化財指定に特化した内容とし「博物館の保有する資料は宝物」をコンセプトに普及啓発を進め、2月に就任した角幸博館長による特別講演会も実施します。

- ① 重要文化財指定記念企画展「和洋折衷の極み 百年の建築美」展 開催時期は 4 月から 9 月まで。8 棟の重要文化財の特徴的な部分をクローズアップして写真展示を行い、「和と洋」の建築的特徴、小屋組、壁、屋根、デザイン性、装飾性について、重要文化財として評価された点を解説し、常設展示では語り尽くせない魅力と価値を紹介する企画展とします。
- ② 「北海道の重要文化財建造物巡り」展開 催時期は 10 月から 3 月まで。北海道内の重要文化財建造物 26 件の建造物写真をパネルにし、建築年や特徴を紹介し、北海道内の歴史的建造物に対する人々の目を喚起させ、歴史的建造物の魅力を多数の人に知っていただく展示となるよう企画します。

①、②ともに会場は監獄歴史館内1階特別展示スペースです。

・継続事業 予算額 800千円

(支出科目:臨時雇用賃金、旅費、通信運搬費、器具費、消耗品費、印刷製本費、学芸研究開発費)

(3) 友の会への助成

① 博物館網走監獄友の会助成 事業

網走監獄の歴史や文化について研修を深め会員相互の親睦を図り、博物館活動の普及を目的とする博物館友の会が主催する行事バスツアー費用助成を実施します。

※友の会事業は、別に会員からの会費収入があり、中央道路開削慰霊碑の清掃・維持活動、二見桜並木観桜植樹会、展示解説会、勉強会を実施します。

・継続事業 予算額 200千円

(支出科目:負担金)

② 『二見桜並木と古道をまもりそだてる会』助成 事業

二見桜並木の保護、啓蒙活動は次第に実を結びつつあります。新年度も会を通じて網走刑務所に桜の開花時期に並木部分の一般市民開放をお願いするほか、植樹用苗木提供(10～15年生桜苗木10本程度)、秋の並木内下草刈り作業外部委託など費用助成を実施します。

・継続事業 予算額 330千円

(支出科目:植栽雑費)

(4) 展示見直しは、1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図るの項にて説明

3 展示建造物の維持、館内の整備と固定資産の取得

博物館網走監獄は開館より 33 年目となります。施設各所の老朽化対策、危険箇所の見直しを進めていますが、来館者の安全確保策は重要な課題であり、よりきめ細やかな対応を進めます。

また海外観光客の増加、高齢者・障がい者など多様化する入館者に対応する「人にやさしい博物館」として施設のユニバーサル対応を進めます。

(1) 危険箇所の見直し・冬期間園路安全対策 事業

冬期間の園路凍結による転倒事故防止対策として園路の傾斜部分にロードヒーティング採用、手すりの増設、階段改修(ゴムマット敷設)を検討します。本年は基本設計作成を委託するものです。

・新規事業

予算額

500千円

(支出科目:委託調査費)

(2) 施設老朽対策・屋外サイン 事業

博物館設置の意義を入館前に理解していただくための屋外サイン設置や、広い博物館敷地内を見学しやすくするために館内数箇所全体図を組み込んだ屋外サイン設置を行うなどサイン計画の改修を進めます。改修するサインは多言語対応を行います。館内 10 基程度の設置を予定します。

・新規事業

予算額

5,000千円

(支出科目:固定資産取得・環境整備)

(3) 外国人利用者増加への対応 歴史館映像展示改修 事業

外国人利用者増加への対応、入館誘致対策として監獄歴史館の映像展示「赫い囚徒の森・体験劇場」の外国語音声に新たに広東語版を追加します。効率よく上映が行えるよう外国語音声選択スイッチを付設します。

・新規事業

予算額

3,780千円

(支出科目:固定資産取得・展示備品)

(4) 高齢者、障がい者利用対策 施設内ベンチ設置 事業

7分間の映像を着席してご覧いただけるよう監獄歴史館映像展示「赫い囚徒の森・体験劇場」に着席用ベンチ(木製、3人掛け6台、可動式)を設置します。屋外休憩用ベンチ、テーブル等の什器配置増設を検討します。

・新規事業

予算額

438千円

(収益事業 支出科目:器具費)

(5) 収益事業部門「監獄食堂」棟改築 事業

27年度に作成した基本設計に基づいて実施設計を行い9月末の食堂営業終了後、現在地にて改築をするものです。周辺景観に適応するデザインの木造平屋建築、面積は凡そ60%程度となりますが、厨房設備・什器配置の見直しなどにより、現在以上の80席を確保します。券売機、飲料の自販機導入など効率よく管理を行うことを計画します。予算は建設費用のほか設計管理費用、什器備品購入、外構整備を含みます。

・継続事業 予算額 69,000千円
(支出科目:固定資産取得・建築物)

(6) 館内景観整備の推進 事業

- ① 平成24年度より取り組みを進めている宿根草植栽による景観作りを推進します。(1,100千円)
- ② 館内の除草・草刈作業外部委託導入など効率的で低コストな景観維持メンテナンスを行います。(750千円)
- ③ 博物館に隣接する再生自然林「ニポポの森」の活用計画を企画します。散策路のメンテナンス(草刈、倒木除去)を実施するほか、平成22年度まで東農大オホーツクキャンパスとの協働研究事業として実施した「ニポポの森」事業の再開等の方策を検討します。(100千円)

・継続事業 予算額 1,950千円
(支出科目:臨時雇用賃金、植栽雑費)

(7) 展示備品のメンテナンス 事業

レンガ正門前設置の看守人形(FRP製)の劣化が著しいため、更新します。

・継続事業 予算額 1,000千円
(支出科目:固定資産取得・展示備品)

4 経営の安定を図るための入館者の安定と収益事業の強化

(1) 入館者、入館料収入の確保

3月末の北海道新幹線開業は道東地区への観光入込に大きな影響を及ぼすことが予想されるが訪日観光客の増加が続いていることを考慮し、

- ・有料入館者数の目標を、228,000人、前年度見込比3%増とします。
- ・入館料収入目標を、206,000千円、前年度見込比3.29%増とします。

予算額 206,000千円

(収入科目:入館料収入)

(2) 収益事業会計の目標

- ・収益事業会計の売り上げ目標を、総額53,977千円、前年度見込比3%増とします。
- ・物品売上収入 27,687千円、食堂売上収入 19,000千円、賃貸料収入 6,550千円、販売委託手数料 740千円。

予算額 53,977千円

(収入科目:物品売上収入、食堂売上収入、賃貸料収入、販売委託手数料)

(3) 個人型観光客誘致を目的としたメディアを利用した情報発信 事業

増加傾向にある国内外の個人旅行者の誘致に繋がる対策として以下の事業を行います。

- ・インターネットを利用した広報。ホームページの維持充実、SNS(フェイスブック等)を利用した情報発信を行います。(628千円)
- ・じゃらん、るるぶ、マップルなどの発行部数の多い全国販売型旅行ガイド誌への企画広告掲載や新聞、情報紙への広告掲載を行うほか、テレビ、映画の撮影、各情報媒体の取材受け入れ、マンガの企画協力などを通じて施設の露出、知名度の浸透、話題づくりを行います。(3,684千円)

・継続事業 予算額 4,312千円

(支出科目:広報費)

(4) 来館者誘致 旅行代理店対策プロモーション 事業

国内旅行代理店対策は、札幌、東京、大阪、名古屋を中心にした主要代理店への対応を進めます。(訪問活動、業者連携団体への加盟、会議出席、旅行商品パンフレット制作協賛、送客手数料の支出)を行います。

・継続事業 予算額 8,005千円

(支出科目:旅費、負担金、広報費、支払手数料)

(5) 入館者誘致を目的とするイベント開催 事業

道内客の主力であるファミリー型観光客誘致を目的に、楽しく遊びながら学べる「宝探しゲーム」、「重要文化財スタンプラリー」等を実施します。集客を目的とした広告掲出、チラシ印刷を行います。

・継続事業

予算額

500千円

(支出科目:広報費)

(6) インバウンド、訪日観光客誘致 事業

訪日観光客誘致に積極的に取り組んでまいります。

- ① 台湾、香港の旅行代理店、航空会社への訪問などプロモーションを行います。(856千円)
- ② 重要文化財指定を活用した誘致パンフレット、館内見学時の案内用リーフレット(ガイドマップ)の充実を図ります。
- ③ 重要文化財建造物に多言語表記解説版を新設するほか(1-(3)・5,700千円)、博物館館見学順路をわかりやすく表示する案内図屋外サイン設置(3-(2)・5,000千円)も多言語表記を行い外国人入館者にやさしい施設作りを進めます。
- ④ インターネットを通じた海外への情報発信を行う為、ホームページ外国語ページ(英文、中文簡体字・繁体字、韓国語)の充実をはかります。(4-(3))
- ⑤ 台湾から道東空港(女満別、釧路、帯広)への定期便開設を要望してまいります。
- ⑥ 冬期間、屋外イベント広場に設置した雪のすべり台(チュービング用スロープ)が外国人入館者に好評でしたので引き続き実施するほか、「冬のおもてなし」として甘酒サービス(庁舎ミュージアムショップ)実施を検討します。

・継続事業

(支出科目:広報費、旅費、負担金、印刷製本費)